



安心とつるおのり下町川の手をめぐりて

防災 まちづくり の 一冊

発行ノ一寺言問の防災まちづくりをめぐりて

昭和61年11月1日

一言祭づくりのエネルギーを

「防災まちづくり計画案」の立案へ

九月二十一日(日)、一言祭が元気に開催されました。心配された雨もあがり、会場になった東向島一丁目子ども広場(地藏坂通り)は、終始多くの参加者で賑わいました。地元団体が準備・運営された一言祭は大成功でした。

今後は、実行委員長や副実行委員長のご挨拶にもありましたように、この一言祭を契機にし、二十一世紀に向けてこの一寺言問地区を災害に強く、そしてうるおいのある住み良いまちにしてゆくまちづくりの推進により力をいれていきたいと思ひます。

一言祭の友は、懸案になっております一寺言問地区の防災まちづくり計画案の立案です。この計画案に皆さんの一言を、

副武勝商実行委員長



会場を埋めた参加者



まちなかオリエンテーリング



防災クイズ大会



前日の夜まで降り続いた雨がやんだのは、やはり私たちの日頃の「おこないがいいからであらうか。夕方には暗闇が見え、夜は星空の下でコンサートが開けるほどに天候が回復してくれた。雨あがりだからか、子供たちごとにかく大勢やってきました。彼らの目的は、一時半からはじまる「まちなかオリエンテーリング」。約二百名の子供たちが集まり、開会前にすでに会場の賑わいは最高潮に達した。

午後一時すぎ、副武勝商実行委員長のあいさつで幕は明かされた。

空き缶による救世出しの実演



地図を頼りに指定されたポイントへ行き、そこでその防災施設(あるいは歴史的施設)を説明したカードを集めてくる「まちなかオリエンテーリング」。時間を愛づゲームではないが、子供たちははかばか足で会場を飛び出した。子供たちがこのまちにある防災施設の意味をどの程度理解したかどうかはわからない。ただ、地図を縦にしたり、横にしたりしながら、十一ヶ所のチェックポイントを探したことや、ふだんあまりみることのできない備蓄倉庫の中にはいったこと、初めて井戸のポンプをさぐり水をくんだことなどは貴重な経験になったはずだ。

会場にもどってきてはくくじの賞品が、非常用持出袋、ラジオ付懐中電灯...と、防災づくめだ。だが、子供たちは「楽しかった」「来年も参加したい」と喜んでいました。

オリエンテーリング参加の子供



訓練などがおこなわれたが、今回ははじめてという若い主婦など約三十名が参加した。

子供たちが帰ってきた三時ごろからは、婦人消防官出題の防災ク

